

目次

- (1) バリアフリー推進ネットワークからのお知らせ
    - 交通バリアフリー基本構想策定セミナーの実施 (6月19日：東京)
    - 交通バリアフリー基本構想策定セミナーの開催報告
    - 交通バリアフリー推進セミナー報告書を作成
  - (2) ネットワーク参加団体の活動報告
    - 港区バリアフリータウンマップを作成
    - 盲導犬ユーザーと過ごすお台場の集い 盲導犬ユーザー誘導方法等体験講座 参加者募集  
(交通ボランティア育成実行委員会)
    - バリアフリー体験、交流会 参加者募集 (京都府北部の福祉の街づくり協会やまびこ)
    - 2002年第6回DPI世界会議札幌大会への協力について (東京ハンディキャブ連絡会)
    - 障害者・高齢者を対象とした移送サービスの学習会のお知らせ (東京ハンディキャブ連絡会)
    - 「普通救命講習」勉強会開催のお知らせ (東京ハンディキャブ連絡会)
  - (3) エコモの活動報告
    - 中学生エコモ訪問 (5月24日、6月7日)
    - らくらくおでかけネット
    - 公共交通ターミナルのバリアフリー度評価について
    - 第13号 ECOMO の発刊
  - (4) 行政の活動報告
    - 交通バリアフリー法基本構想策定状況
  - (5) 各種催し物のお知らせ
    - 障害者・高齢者を対象とした移送サービスの学習会のお知らせ
    - 第5回日本福祉のまちづくり学会
    - 第6回 DPI 世界会議
    - 国際ユニバーサルデザイン会議 2002
  - (6) その他
    - 書籍に関して
    - 記事募集中
    - お願い (必ずお読みください。)
    - ・転送先について
    - ・送付先について
- コラム**
- ISO/IEC「ガイド71」
  - 2001年度(4～3月)福祉車両販売実績 “福祉車両市場は拡大傾向”
-

(1) バリアフリー推進ネットワークからのお知らせ

交通バリアフリー基本構想策定セミナーの実施(6月19日)

交通バリアフリー基本構想策定セミナー(主催:バリアフリー推進ネットワーク他)を、東京にて開催致します。

下記、案内をお送り致しますので、ご覧いただき、奮ってご参加いただけますよう、お願い致します。

-----  
「志高い交通バリアフリーを目指して ~この1年の成果を先進事例から学ぶ~」

交通バリアフリー法が施行され、各自治体で基本構想を策定する動きが活発になり約1年が経過しました。この間、全国で様々な構想が計画され、各々の事例がようやく見られる段階となりました。そこで、地方自治体やコンサルタントがよりよい計画をつくる参考となりますよう、以下のセミナーを企画しました。是非ともご参加下さいませようお願い致します。(事例として発表する自治体につきましては予定です。)

- 記 -

主催:土木学会土木計画学研究委員会

「高齢社会における交通システム整備の体系に関する研究小委員会」

日本福祉のまちづくり学会

交通バリアフリー推進支援連絡協議会(バリアフリー推進ネットワーク)

交通エコロジー・モビリティ財団

後援:国土交通省(予定)

日時:2002年6月19日(水) 午後1時30分~4時45分

場所:麻布区民センター <住所> 東京都港区六本木5-16-45(TEL03-3583-5487)

<最寄駅> 六本木駅(日比谷線・大江戸線)下車出口3番より徒歩6分

麻布十番駅(南北線・大江戸線)下車出口7番より徒歩14分

(詳細地図) <http://www.kissport.or.jp/sisetu/azabu/azabu.html>

内容 1:00~ 受付開始

1:30~1:35 主催者の挨拶

1:35~1:55 基本構想の基本的なスタンス 秋山哲男(東京都立大学)

1:55~2:15 藤沢市 住民参加型道づくりの原型から出発

2:15~2:35 荒川区 自治体自らの力でつくった

2:35~2:55 守山市 市民全員参加を目指して

2:55~3:15 堺市 庁内の連携力を発揮

3:15~3:30 ~休憩~

3:30~3:50 総括コメント 三星昭宏(近畿大学)

3:50~4:45 討論 コーディネイト 山田稔(茨城大学)

パネリスト(予定)

大島明(国際航業)、本田恵子(交通エコモ財団)、

自治体(検討中)、太田秀也(国土交通省)

参加費:2,000円(事前に下記普通口座までお振り込みお願い致します。)

三井住友銀行 本店公務部(普)口座番号3015618

名義 交通エコロジー・モビリティ財団

申込方法:(1)氏名、(2)所属と部署、(3)住所、(4)参加会場(大阪 or 東京)、(5)電話とファックス、(6)メールのアドレス、をご記入の上、メール、FAX、手紙等で下記に6月10日までにお申し込みください。(上記の参加費振り込みもお願い致します。)なお、座席数の関係から先着200名までとさせていただきます。

申込先:交通エコロジー・モビリティ財団 藤田

住所:東京都千代田区麹町5-7 秀和紀尾井町 TBRビル 808

電話:03-3221-6673、Fax:03-3221-6674 E-mail: [m-fujita@ecomor.jp](mailto:m-fujita@ecomor.jp)

## 交通バリアフリー基本構想策定セミナーの開催報告

5/29(水)、交通バリアフリー基本構想策定セミナーを大阪の福島区民センターにて開催いたしました。4自治体を先進事例として、基本構想の中身はもとより、進めるにあたっての悩みや工夫等(庁内連携や住民参加、財源等)を紹介していただきました。またパネルディスカッションも行い議論を深めました。

当日は、蒸し暑い天候の中、自治体等151名ものご参加を頂きまして、大変ありがとうございました。

## 交通バリアフリー推進セミナー報告書を作成

先月号でもお知らせしましたが、昨年1年間全国10カ所で開催しました、交通バリアフリー推進セミナーの報告書を作成しました。ご希望の方は、ご連絡ください。

## (2) ネットワーク参加団体の活動報告

### 港区バリアフリータウンマップを作成(港区バリアフリータウンマップ作成委員会)

<http://www.minato-cosw.net/syakyou/townmap/about.html>

港区で作成したバリアフリータウンマップに関してですが、現在、港区社会福祉協議会ボランティアセンターの協力を得て「港区バリアフリータウンマップ」を作成し、港区のホームページに掲載するとともに、同じ内容の冊子も無料で配布しているそうです。

今号では、作成までの経緯を掲載させて頂きたいと思います。

#### 1. 旧版「港区車いすタウンマップ」の完成

約10年前、港区社会福祉協議会ボランティアセンター(ボラセン)の呼びかけに応じて集まったさまざまな人々が、「車いす利用者」に便利な区内の公共的施設と道路等を一つ一つ調べ上げ、5年後の1997年3月に、「港区車いすタウンマップ」という冊子を完成させた。この冊子は、他の福祉団体、学校や経団連1%クラブのメンバーにも配られ、「障害者、専業主婦、勤労者など異質な構成員の協働の成功事例」として高い評価を得た。冊子の利用者を車いす使用者に絞り込んだのは、「一つの建物の調査に要する手間を減らして、とにかく港区全域を調査しよう」という気持ちがあったこと、そして「視覚障害者には冊子でうまく情報を提供出来ないだろう」と考えたからである。しかし、「更新ができないこと」と「視覚障害者等へ対応できない」の二点は誠に残念だった。

このときの構成員(旧メンバー)は「車いすとともに歩く会」というボランティア団体を組織して都内全域の観光スポットマップ作成並びに「障害者と街を歩く活動」を続けている。

2002年4月末には新たに都内を調査した冊子(車いすとともに歩く お出かけガイド)を完成させ、希望者に有料(500円+郵送料)で配布している。(問合せ先;港区社会福祉協議会ボランティアセンター 03-3431-2081)

#### 2. 新版「港区バリアフリータウンマップ」の構想

2000年度、港社協のボラセンでは、森マサ子新センター長を中心に新たなマップづくりの企画が持ち上がった。区内には多くの駅(地下鉄)が新設され、再開発も進展し、バリアフリーの街づくりも動き出し、旧マップ更新の機運が盛り上がっていた。ただし、「IT(インフォメーション・テクノロジー)を活用して最新の情報を視覚障害者にも届ける」という、「過去に例を見ない無謀な試みに挑戦する」との条件に、参加者は「パソコンがボラセンにほんの1~2台しかない状況で、そんなもんが出来るんか?」という不安を抱えてのスタートであった。

調査に慣れた「車いすとともに歩く会」から旧メンバーが僅かながら参加した。旧版が5年を要したのに、新版はたった2年間、調査結果は車いす利用者以外の方にも役立つようにというもので、しかも、インターネットを利用して港区のホームページに載せ、ときどき更新しようという企てにしては乏しい予算だった。

結果的には、活動を続けた二年の間にITは確実に普及し、Eメールで意見を取り纏め、調査結果もメールで送信するようになった。

当時(今から二年前)冊子の形でのマップ作りはブームを迎え、目的が曖昧なまま綺麗な

冊子が各地域で作られていたが、新メンバーは改めて「目的の明確化」から手をつけた。アンケート用紙を持って高齢者や障害者に「何が欠けているか」を問い、1枚の調査に1時間もかけて160名以上の貴重な意見を得た。アンケートの結果は「電話などで建物内部の情報は何とか得られるが、途中の経路の情報が得られない」「車いす利用者と視覚障害者では、ニーズが異なる」というものだった。

新メンバーは展示会や学会に出かけ、喋るパソコン、弱視、交通バリアフリー法、ハートビル法についての勉強もした。

1年前、侃侃諤諤の議論を経て四つのニーズが明確になり、「マップが本当に必要なんだ」と実感できた頃から、メンバーも固定化し、複数の部会が生まれ、部会の中で自分の得意技を生かして自発的に活動するようになった。土木・建築、パソコン・ホームページ、介護・社会貢献などさまざまなプロが結集したが、何よりも障害者・高齢者が積極的に参加し、自らの体験に立脚して「どうしてもこの情報は必要なんだ」という主張を通じてゴールが見えるようになり、メンバーの結束がさらに強まった。

マップの目的（バリアフリータウンマップ憲章と呼んだ）は、

障害者、高齢者の自由な外出、移動、さらには社会参加や就業の促進、  
心のバリアの解消、コミュニティ再生のきっかけづくり、  
建物や構築物のバリア解消、都市再生に向けた具体的な提言、  
多様な手段を組み合わせることによる情報格差解消への貢献、とした。

実際に現地を歩いて調査するまでに、驚くほど多様な下調べと決断が必要となったが、判断基準は、この憲章だった。（次号続く）

#### 盲導犬ユーザーと過ごすお台場の集い 盲導犬ユーザー誘導方法等体験講座 募集中 (交通ボランティア育成実行委員会)

盲導犬ユーザー・盲導犬に対する正確な理解及び誘導方法等を楽しく学ぶボランティア体験講座です！

1. 日 時：平成14年7月13日(土) 9時30分から17時ころ
2. 行 程：(以下参照)
  - 9:30 千葉駅改札集合
  - 10:00 貸切バス出発(バスの車内で自己紹介、盲導犬に関する事前学習をします)
  - 11:00 お台場に到着
  - 11:10 盲導犬誘導等実技講習  
講師：若月先生(交通ボランティア育成実行委員会アドバイザー) 日本盲導犬協会職員  
竹野先生(元栃木盲導犬協会訓練士 現在依頼中)
  - 11:40 昼食及び自由行動時間付き添いメンバー発表
  - 12:30 自由行動時間(盲導犬ユーザー毎の個人行動に付き添いとして活躍！)  
ボランティアさんは、お買い物等に付き添い、盲導犬ユーザーの素顔に迫ってください！
  - 15:00 貸切バス乗り場に集合
  - 15:30 貸切バス出発(千葉駅前まで帰ります)
  - 17:00 千葉駅前到着随時解散
3. 会 費：「5,000円」(予定)  
バス代金+昼食代金、参加人数が多ければもっと安くなります！
4. 参加人数：35~45名程度を予定
5. 備 考：車イス使用者で参加を予定される方については、別途調整します。
6. 主 催：千葉県盲導犬ユーザーの会
7. 協 力：交通ボランティア育成実行委員会
8. 運営委員会事務局 千葉県盲導犬ユーザーの会 保谷(TEL047-443-8482)  
交通ボランティア育成実行委員会事務局担当  
池田(TEL048-824-3307) 小澤(TEL0902-941-9081)

9. 申込方法：お名前、年齢、性別、住所、電話番号、こんなことを知りたい等の要望事項をご記入の上、メール：[ikedada6569@mub.biglobe.ne.jp](mailto:ikedada6569@mub.biglobe.ne.jp)、もしくは、FAX：048-824-3307でお申し込みください。

バリアフリー体験、交流会 参加者募集（京都府北部の福祉の街づくり協会やまびこ）

全国にないバリアフリーの整った建物で、バリアフリーを体験し、交流会をしていきたいと考えています。

また、点字の美術作品を実際に触れて解るような場所もオープンする予定です。見学を兼ねて交流会を開催したいと考えています。

車いすの方お一人に、介助の方が1人でも2人でも参加希望される方は、ハガキでご応募ください。

締め切りは6月20日（木）とします。

日程：7月7日（日）～8日（月） 1泊2日

7月7日 10:00 北近畿タンゴ鉄道 宮津駅 集合

11:30 昼食

13:00 稲の船屋や風力発電を見学

見学後、スイス村へ移動

夜 バーベキュー等

7月8日 10:00 解散

宿泊場所：弥栄町スイス村宿泊施設 詳細は、下記をご参照ください。

人数：参加される方、介助の方の人数をご記入ください。

参加費：12,000円（宿泊費、集合場所からの移動費込み）

集合場所までの交通費は自己負担となります。

申込先：下記まで、必ずハガキでお問い合わせください。

〒625-0021 京都府舞鶴市字安岡小字中山 1076-2

京都府北部福祉の街づくり協会やまびこ 菅蒲谷 賢治氏

もしくはエコモまでお申し込み頂いても構いません。

スイス村について：スイス村交流体験宿泊施設「風のがっこう京都」

住所：京都府竹野郡弥栄町野中小字住山 329-1（弥栄町森林公園スイス村内）

電話：0772-66-0036（スイス村総合案内）66-4902（弥栄町役場ガンバロウ課）

標高約660m、丹後半島のてっぺんに本施設は位置しており、京都府の風力発電施設6基（自治体整備としては、全国最大規模）をはじめ、若狭湾、日本海を一望にできる眺望はまさに絶景です。

「森の中の大木の切り株」をイメージした本施設は、今年の6月1日にオープンしたばかりの施設です。

設計にあたっては「京都府北部の福祉のまちづくり協会」菅蒲谷賢治氏の助言を取り入れ、全館バリアフリー、和室の畳と床面の段差なし、全トイレ車いす仕様OK、エレベーター完備、コンセント・スイッチ類・ドアノブの高さからエレベーターのボタンの大きさに至るまで身障者の方に使いやすい配置を採用し、「京都府福祉の町づくり条例」の認証も取得しています。

また、本施設は、建設にあたり、健康壁紙使用、環境ホルモンを考慮した材料の使用を行うなど地球環境に優しい仕様をできる限り取り入れるとともに、備品にも間伐材を利用したテーブルや健康石綿入りの椅子を使用するなど、人にやさしい素材にこだわりました。

施設概要：鉄筋コンクリート3階建 宿泊定員41名

2002年第6回DPI世界会議札幌大会への協力について（東京ハンディキャブ連絡会）

2002年10月15～18日に北海道札幌市において、世界各国から約2000名の障害のある方々が集まりDPI札幌大会が開かれます。この大会への海外からの参加者が経路する成田空港～羽田空港間を中心とする送迎について、東京ハンディキャブ連絡会では、埼玉県移送サービスネット

ワークと横浜移動サービス協議会の3団体で共同してあたります。

先日3団体の代表とDPI事務局との話し合いが行われ、概要が決定いたしましたので、お知らせいたします。

#### 1. 移送サービスの対応期間・対応方法

- ・10月12～14日(成田空港～羽田空港)と19～20日(羽田空港～成田空港)を中心に対応する。
- ・大会前に来日する世界評議員については、別途主催者からの情報提供により個別対応する。
- ・大会開催期間中(10月15～18日)については、主催者からの特別の求めがない限り対応しない。
- ・原則としてリフト付き普通車による対応とするが、人数が集中した場合は移送サービス団体の所有するリフト付きバスを活用することも検討する。

#### 2. 運行経費

- ・成田空港～羽田空港間の運行経費(利用料)は協力運行団体共通とし、各空港までの回送料を設定して、団体毎の走行距離の違いに対処する。
- ・回送料については埼玉・東京・横浜とも平均値を概算して、それを回送料とする。

#### 3. その他

- ・各空港での誘導・介助ボランティアを募集する。地元のボランティアセンター及び各団体で募集を行う。

実際の送迎スケジュールについては、今後調整いたしますが、期間中送迎にご協力していただける団体は、東京ハンディキャブ連絡会までご連絡をお願いいたします。

送迎協力についてのお問合せは、東京ハンディキャブ連絡会または、埼玉県移送サービスネットワーク、横浜移動サービス協議会までお願いいたします

### 障害者・高齢者を対象とした移送サービスの学習会のお知らせ(東京ハンディキャブ連絡会)

#### 障害者・高齢者の移動問題にどう取り組むか

- NPOなどの行う個別移送サービスの実態とその社会的意義を考える

我が国において、この高齢者・障害者の移動問題に早期より取り組んできたのが、ボランティアグループやNPO、社会福祉協議会であり、そうした団体の行う移送サービスは、すでに地域に住む障害者や高齢者の生活になくはならない「足」として、サービスを提供しています。しかし、ボランティアを中心としたその活動の意義や有効性・効率性が十分に理解されているとは言えず、「白タク行為(自家用自動車による無許可の有償運行)」と誤解を受ける場合もあります。

そこで東京ハンディキャブ連絡会では、東京ボランティア・市民活動センターとの共催によりボランティア団体やNPO法人、社会福祉協議会などが行う移送サービスについて、その実態や意義を理解していただきながら、区市町村における福祉や交通施策の上でご参考いただけるように、学習会を企画いたしました。FAX、E-mailでお申込みをお願いします。

日時： 2002年6月14日(金) 14:00～17:00

会場： 東京ボランティア・市民活動センター

内容：(予定)

- (1) 障害者・高齢者に対する個別移送サービスの必要性と諸外国の取り組み

秋山哲男氏(東京都立大学大学院都市科学研究科教授)

- (2) 東京都内における市民活動団体の動向及び行政との協働について

東京ボランティア・市民活動センター

- (3) 移送サービスの実践例報告

町田ハンディキャブ友の会 他

- (4) 報告者及び会場参加による意見交換

参加費(資料代)： 行政関係者・会員 1,000円、非会員 2,000円

申し込み・問合せ先：東京ハンディキャブ連絡会

〒192-0907 東京都八王子市長沼町916-2シャトレーたしる第2 102号

「普通救命講習」勉強会開催のお知らせ（東京ハンディキャブ連絡会）

移送サービスでは、原則として身体の容態が安定していない方は利用対象としておりませんが、障害がある方や高齢の方など、いつ何時体調を崩したりするかもしれません。また交通事故などの際に、負傷者の救護活動は、運転者の義務として、現在では教習課程にも組み込まれています。基礎的な救急技術の修得は、いざというときに慌てず、適格な対応ができるようになるとともに、日常生活での事故などでも役立つものです。

今回は消防庁のカリキュラムによる普通救命講習会を実施いたします。

日 時： 2002年6月29日（土）13:00～17:30

会 場： 東京ボランティア・市民活動センター

参加費： 会員1,000円 会員外2,000円

定 員： 25名

申込み・問合せ先： 東京ハンディキャブ連絡会

お申込みは、FAX、E-mail、郵便でお願いします。

実技講習ですので、当日の参加申込みはできません。また見学もお断りいたします。

(3) エコモの活動報告

中学生エコモ訪問（5月24日、6月7日）

大田区立羽田中学校の2人の生徒さんが、訪問調査学習の一環で、5月24日（金）にバリアフリーについて勉強するために、エコモに来てくれました。非常に勉強熱心な生徒さんたちで活発な質疑応答が交わされました。

また、福井県武生市立武生第一中学校の14名の生徒さんが、修学旅行の東京都内の班別自主プランにおいて、6月7日（金）にバリアフリーについて勉強するために、エコモに来てくれました。バリアフリーについての説明の他に、その他、駅構内におけるバリアフリーや、ノンステップバスについて説明しました。

らくらくおでかけネット

ご存じですか。らくらくおでかけネット（交通バリアフリー情報提供システム）を本年1月から開始しております。これは、インターネットや携帯端末を使って、エレベーターの設置状況、身体障害者対応型トイレの設置状況などをバリアフリーの最適なルートが探索できます。1月の運用開始からこれまで（5月10日）143,488件のアクセスがありました。皆さんのご意見をお待ちしております。

アドレス：（パソコン版）<http://ecomomri.co.jp/rakuraku/index/>

（携帯版 = i-mode, j-sky）<http://ecomomri.co.jp/rakuraku/mobile/>

（携帯版 = EZ-web） [http://ecomomri.co.jp/rakuraku/mobile\\_ez/](http://ecomomri.co.jp/rakuraku/mobile_ez/)

公共交通ターミナルのバリアフリー度評価について

前回のメールマガジンにて「公共交通ターミナルのバリアフリー度評価に関する簡易評価マニュアル」を公開した旨のお知らせを致しました。

本評価マニュアルは、あくまでも地域のボランティア、市民グループ、学生の皆様などが自主的に評価に取り組みされる時（地域の基本構想作成時などが考えられます）にお役立ていただく方法として、提供させていただいておりますので、是非ともご自由にお使いいただければと思います。なお、弊財団より、評価を行う旨の依頼を皆様に行っているものではありませんので、誤解のないよう、よろしく願いいたします。

ECOMO 第13号の発刊

エコモ財団の事業内容の紹介が満載された第13号のECOMOが、6月12日に発刊されました。

ご希望の方は、ご連絡ください。

(4) 行政の活動報告

交通バリアフリー法基本構想策定状況

これまでの基本構想策定状況 23市町村

福岡県福岡市、北海道室蘭市、広島県呉市、千葉県千葉市、山梨県石和町、大阪府守口市、鳥取県鳥取市、新潟県亀田町、大阪府交野市、大阪府八尾市、千葉県船橋市、北海道千歳市、大阪府堺市、福岡県大牟田市、東京都荒川区、富山県小杉町、福岡県福岡市、兵庫県明石市、香川県丸亀市、石川県金沢市、北海道恵庭市、埼玉県熊谷市、神奈川県相模原市

詳細に関しては、国土交通省総合政策局交通消費者行政課のホームページをご覧ください。

[http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrier/mokuji\\_.html](http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrier/mokuji_.html)

(5) 各種催し物のお知らせ

障害者・高齢者を対象とした移送サービスの学習会のお知らせ

6月14日(金) 13:00~17:00。東京ボランティア・市民活動センターにて開催。

連絡先：東京ハンディキャブ連絡会

TEL&FAX 0426-36-6807 E-mail [handicab@tky3.3web.ne.jp](mailto:handicab@tky3.3web.ne.jp)

〒192-0907 東京都八王子市長沼町916-2シャトレーたしる第2 102号

第5回日本福祉のまちづくり学会 <http://www.jice.or.jp/fukushi/index.html>

8月8日(木)~10日(土)の3日間。

熊本市民会館(熊本市桜町1-3 TEL096-355-5235)にて開催。

第6回DPI世界会議 <http://homepage2.nifty.com/dpi-japan/6sapporo/sapporo1.htm>

10月15日~18日の4日間。道立体育総合センターきたえーるにて開催(札幌市)。

国際ユニバーサルデザイン会議2002 <http://www.ud2002.org/index-j.html>

11月30日~12月4日の5日間。パシフィック横浜にて開催。

連絡先：相鉄エージェンシー/パシフィック・コンベンション・サービス

TEL: 045-450-7003 E-mail: [info@ud2002.org](mailto:info@ud2002.org)

(6) その他

書籍に関して

交通エコモ財団では、現在バリアフリー関係の書籍を発行しております。ご興味のある方は、当財団のホームページをご覧ください。

[http://www.ecomo.or.jp/barrier\\_free/bari\\_f\\_index.html](http://www.ecomo.or.jp/barrier_free/bari_f_index.html)

**記事募集中!**

現在、次号メールマガジンに掲載させて頂ける記事を募集中です。セミナーのお知らせや、活動報告、エッセイ等々何でも結構です。どしどしお寄せください。掲載をご希望の方は、メールかFAXでお送りください。

エッセイに関しましては、誠に申し訳ありませんが、掲載するか否かは編集担当に一任頂き、謝礼なし、とさせていただきます。

E-mail: [ecomomail@ecomomail.jp](mailto:ecomomail@ecomomail.jp) FAX: 03-3221-6674

**お願い(必ずお読みください。)**

・転送先について

このメールマガジンを発刊してから、多くの方からお申し込みを頂いております。ありが

とうございます。おそらく、お読み頂いている方から、更にその他のネットワークに転送して頂いていることがあると思います。現在、どの様な所まで、このメールマガジンをお読み頂いているかを把握したいと考えております。転送して頂いている方は、そのネットワーク、もしくは団体のお名前と人数をお教え頂ければと思います。

E-mail : ecomomail@ecomomail.or.jp

・送付先について

このメールマガジンをなるべく E-mail で送付させて頂きたいと思っております。アドレスをお持ちの方はご連絡ください。

E-mail : ecomomail@ecomomail.or.jp

## コラム

### ISO/IEC「ガイド71」

ISO(国際標準化機構)/IEC(国際電気標準会議)で「ガイド71」(規格作成における高齢者、障害者のニーズへの配慮ガイドライン)が昨年11月20日完成・公布された。日本においても平成14年度にJIS化される予定。このガイドは、国際規格の作成に携わる人を対象とし、高齢者および障害のある人々のニーズをどのように明文化すればよいかの指針が提供されている。

このガイドの中に「アクセシブル・デザイン」という用語がでてきている。この用語の意味は、何らかの機能に制限を持つ人に焦点を合わせ、これまでのデザインをそのような人々のニーズに合わせて拡張することによって、製品や建物やサービスをそのまま利用できる潜在顧客数を最大限まで増やそうとするデザインのことで、バリアフリー・デザインよりもユニバーサルデザインに含まれる概念で使われているとのことが記載されています。要するに利用者の安全、ニーズを最大限にとらえ説明することが、商品提供者の役割であることを明確に示したものの。

また、アクセシビリティの分野の発展は、高齢者や障害者に関わる多くの新しい用語や定義を生み出し、それらは世界各国でさまざまに用いられる。たとえば‘people with disabilities’(障害を持つ人)を好む人もいれば、‘disabled people’(障害者)を好む人もいる。全体的に言えることは、それらの用語が、より規範的かつ記述的になり、否定や偏見の意味合いが減少したことであるとの記述もある。果たしてわが国もそうであろうか、大いに疑問の残るところであるが、少しでも前に進んでいることは評価すべきである。

### 2001年度(4~3月)福祉車両販売実績“福祉車両市場は拡大傾向”

福祉車両市場は、特に95年度に入り各社による軽自動車の本格的参入と小型車市場におけるシートリフト・回転シート付車の導入に伴う高齢者向け需要の顕在化等により、同市場は毎年堅調に伸び続け高い台数水準を維持している。

#### 2001年度の車種別販売状況

2001年度(4~3月)の販売台数は、33,784台、前年度比16.5%増であった。

1. 軽自動車は7,880台、前年度比48.3%の増である。低価格で女性に扱いやすいということで車いす移動車を中心に伸びている。
2. 小型車は22,206台、前年度比7.0%の増加となっている。2000年4月の介護保険制度導入に伴い福祉施設等への送迎用1BOXワゴンやマイクロバスの需要が99年度に大きく伸びたことの影響があったものの、高齢者の増加により車いす移動車を中心に順調に伸びている。
3. バスは3,698台前年度比26.1%の増加となった。2000年11月より交通バリアフリー法が施行されたことから、2001年度は路線バスを中心に需要が顕在化し増加した。

(資料提供:(社)日本自動車工業会)